

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25463567

研究課題名（和文）介護保険施設の看護職を対象にした倫理教育プログラムの開発と継続的評価

研究課題名（英文）Development and continuous evaluation of an ethics education program for nurses working at nursing homes

研究代表者

藤野 あゆみ（FUJINO, Ayumi）

愛知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：00433227

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、介護保険施設のケア提供者の道徳的感受性を高め、かつ高く保持するためにアクションリサーチを用いた教育的介入を実施し、継続的に評価することを目的とする。研究の第1段階では介護保険施設の看護職を対象にした質問紙調査を行い、道徳的感受性と多次元共感性尺度との間に弱い相関があることが示された。第2段階のアクションリサーチでは、介護保険施設の多様な選択場面において意思表示が困難な認知症高齢者をいかに支援し、意思決定するのか等の課題が明らかにされた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to conduct and evaluate an ethics education intervention using action research to enhance the moral sensitivity of nurses working at nursing homes and maintain a high quality. First, a questionnaire survey was conducted, which showed a significant weak positive correlation between scores on moral sensitivity and the multidimensional empathy scale. Next, in the action research, problems such as how to support elderly people with dementia, people who find it difficult to display intentionality, and people who make decisions in various selection scenes were clarified.

研究分野：老年看護学

キーワード：介護保険施設 道徳的感受性 看護職

### 1. 研究開始当初の背景

介護保険制度の開始後、身体拘束禁止の明文化や「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」の制定に伴い、介護保険施設における倫理的課題への関心が高まってきた。ただし、介護保険施設は医療機関とは異なる生活の場であり、医療倫理をそのまま用いることはできず、高齢者の日常を倫理的側面から捉える Everyday Ethics<sup>1)</sup>が着目されるようになった。

介護保険施設の日常場面を Everyday Ethics の観点から捉えた研究では、高齢者の意思に関係なく、日中は車椅子で過ごす暗黙のルールや<sup>2)</sup>、日中の過ごし方を入所者自身が決定できない状況が見出され、介護保険施設の日常場面に多様な倫理的課題が潜在する危険性が示唆された<sup>3)</sup>。

このような状況を看護職が見過ごさず、的確に捉えて思考し、適切かつ効果的な対応をするためには、個々の場面に潜む倫理的課題を見出す道徳的感受性が欠かせない<sup>4)</sup>。しかし、看護職は日常業務の中で体験する様々な問題を看護倫理上の問題と捉える視点が弱いことが指摘され<sup>5)</sup>、看護職の道徳的感受性を高める教育的な支援が取り込まれるようになった。その中でもミネソタ大学の倫理 MCLS<sup>6)</sup>、聖路加大学の倫理教育プログラム<sup>7)</sup>では、感受性が高まる成果が報告されたが、その一方で、道徳的感受性を高く維持できない課題<sup>6)</sup>が残された。そこで、介護保険施設の看護職の道徳的感受性を高め、かつ高く維持できるようにすることを目指した倫理教育介入案を作成し、その効果を評価する必要があると考えた。

倫理教育介入案の作成にあたり、倫理的課題を見出すことに焦点を当てた介入では、看護職の道徳的感受性を高めることができたとしても、それを高く維持するには十分とは言い難いと推測された。看護職の道徳的感受性を高く維持する倫理教育介入案を作成するためには、看護職が倫理的課題を見出すための介入と同時に、看護職と研究者が一緒に見出した倫理的課題を判断、実施、評価することで、道徳的感受性を高く維持できるのではないかと考えた。そこで、看護職と研究者が共に倫理的課題に向き合い、話し合いながらその課題に取り組むアクションリサーチの手法を導入した倫理教育介入案を作成することが必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、1) 介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性を高め、かつ高く保持するためにアクションリサーチを用いた倫理教育介入案を作成することと、2) 当該教育介入を実施してその効果を継続的に評価することである。

### 3. 研究の方法

介護保険施設で働く看護職の道徳的感受

性を高め、かつ道徳的感受性を高く保持することを目指した倫理教育介入案を作成するために、2段階構成の研究計画を立案した。研究計画(1)第1段階(実態調査): 介護保険施設の看護職を対象にした質問紙調査を行った。本質問紙調査の目的は、介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性に影響を及ぼす因子を明らかにし、介護保険施設の看護職を対象とした倫理教育プログラムを開発するための基礎資料を得ることであった。(2)第2段階(倫理教育介入案の作成・実施・評価)実態調査の分析結果を参考に介護保険施設の看護職を研究参加者とした倫理教育介入案を作成し、当該介入を実施、評価した。

#### (1) 実態調査

全国の福祉保健医療関連の情報を総合的に提供しているサイトである WAM-NET (Welfare And Medical Service Network System) の高齢者福祉施設情報に登録されている介護保険施設リストより無作為に約 2000 施設を抽出し、施設長に対して文書による調査協力を依頼し、施設長の承諾を得た。施設長より承諾の得られた介護保険施設(特別養護老人ホームおよび介護老人保健施設)で働く 1996 名の看護職を対象に質問紙調査を行った。

質問紙は、基本属性として対象者の年齢、現職場における経験年数、看護職としての経験年数、倫理に関する知識・情報(日本看護協会の看護者の倫理綱領、厚労省の身体拘束ゼロへの手引きや日本老年医学会の「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン~人工的水分栄養補給の導入を中心として~」)についての既知の有無、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」、「多次元共感性尺度」等で構成した。

分析方法は、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点を基本属性によって分けた2群間で対応のないt検定を行った。また、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」と「多次元共感性尺度」の合計得点および下位尺度得点について相関係数を算出した。

倫理的配慮については、質問紙の調査説明書に研究への参加は自由意思によること、質問紙は無記名として匿名を堅持すること、施設や個人を特定できないようにして研究成果を発表すること等を明記し、所属大学の研究倫理審査委員会による審査と承認を得た。

#### (2) 倫理教育介入案の作成・実施・評価

(1)の実態調査の分析結果を踏まえて、アクションリサーチを用いた倫理教育介入案を作成した。アクションリサーチについては、研究者と看護職(介護職を含む)が互いに理解し合い、互いの了解による意思決定をしながら研究プロセスを共に進めるミューチュアルアプローチを用いた<sup>8)</sup>。

研究参加者は、研究協力の得られた介護保険施設（1施設）で働く看護職および介護職とした（介護保険施設において看護職は介護職と協働して高齢者の日常生活援助を行うため、看護職だけではなく、介護職も研究参加者とした）。データ収集は、看護職および介護職に対するインタビュー、質問紙調査等によって行った。質問紙で得られた量的データは、基本統計量の算出等を行った。インタビューで得られた音声データについては、逐語録を作成して質的に分析した。

倫理的配慮については、研究参加者に対して研究への参加は自由意思によること、同意後の途中撤回も可能であること、質問紙調査は無記名として匿名を堅持すること、全てのデータについて施設や個人を特定できないようにして研究成果を発表すること、適切にデータを管理すること等を口頭および文書で説明し、文書による同意を得た。なお、本研究は所属大学の研究倫理審査委員会による審査と承認を得て実施した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 実態調査の結果

調査票は 1996 名に配布され、回収数は 1192 票（回収率 59.72%）であった。対象者の平均年齢は 49.77 歳（ $\pm 10.01$ ）であり、現職場の経験年数の平均値は 8.73 年（ $\pm 2.65$ ）、看護職としての経験年数の平均値は 23.85 年（ $\pm 1.06$ ）であった。看護者の倫理綱領に関する既知の有無で分けた 2 群間で「介護保険施設の看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点について対応のない t 検定を行ったところ、2 群間で有意差がみられた（ $p < 0.05$ ）。同じく、身体拘束ゼロへの手引きの既知の有無および高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン～人工的水分栄養補給の導入を中心として～についての既知の有無で分けた 2 群間で「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点について対応のない t 検定を行ったところ、いずれも 2 群間で有意差がみられた（ $p < 0.05$ ）。また、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点と「多次元共感性尺度」の合計得点および下位尺度得点について相関係数を算出したところ、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点と「多次元共感性尺度」の下位尺度である視点取得（Perspective Taking）の得点との間に正の弱い相関関係がみられた（ $p < 0.05$ ）。

上記の結果より、「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」に影響する要因として、看護者の倫理綱領、身体拘束ゼロへの手引き等の看護倫理に関する知識・情報の既知の有無が挙げられることが示唆された。

##### (2) 倫理教育介入案の作成・実施・評価

実態調査で「介護保険施設で働く看護職の道徳的感受性尺度」の合計得点について、倫

理に関する知識・情報の既知の有無で分けた 2 群間で対応のない t 検定を行ったところ、有意差がみられた。この結果より、倫理に関する知識・情報のある看護職はそれらの知識・情報のない看護職より道徳的感受性が高いのではないかと仮定し、本研究の倫理教育介入案として倫理に関する知識・情報を提供する計画を立てた。具体的には、看護者の倫理綱領、介護保険施設における倫理的課題等について、アクションリサーチ実施前に看護職および介護職に対して集合教育形式で提供する計画を立案・実施した。

アクションリサーチでは、看護職は「意思表示が困難な認知症高齢者が何を望んでいるのかわからないので、どのように捉え、判断したらよいのだろうか」等の問題意識を持っていることが明らかになった。そこで、実態調査で「介護保険施設で働く道徳的感受性尺度」の合計得点と「多次元共感性尺度」の下位尺度「視点取得」の得点の間に正の弱い相関関係がみられた結果に着目して、高齢者の立場に立って状況を捉え直し、課題に取り組む計画を立案・実施し、継続的に評価している。

##### < 引用文献 >

- 1) Kans, R. A., Caplan, A. L., Everyday ethics: resolving dilemmas in nursing home life. New York: Springer. 1990.
- 2) Solum E. M., Slettebø Å., Hauge S., Prevention of unethical actions in nursing homes, Nursing Ethics, 15 (4), 536-548, 2008.
- 3) 渡邊智子他, 介護老人保健施設での看護・介護職が有する倫理的ジレンマ, 看護管理, 36, 392-394, 2005.
- 4) Rest J., Moral Development: Advances in research and theory, New York, Wiley, 1986.
- 5) 岡谷恵子, 看護業務上の倫理的問題に対する看護職者の認識, 看護, 51(2), 26-31, 1999.
- 6) Rest J., Moral Development in the professions, New York, psychology press, 1994.
- 7) 小林真朝他: 訪問看護師を対象とした地域看護倫理教育プログラムの開発と評価 (第3報) MSQによる倫理的感受性の変化, 日本看護科学学会学術集会講演集 27 回, 504, 2007.
- 8) 筒井真由美, 研究と実践をつなぐ アクションリサーチ入門 看護研究の新たなステージへ, ライフサポート社, 42-43, 2011.

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 3 件)

Ayumi Fujino, Yumiko Momose, Nobuko Amaki, Study of an ethic-education intervention that targets nurses working at nursing homes - From the relationship between moral sensitivity of nurses and attributes of nurses - , 32nd International Conference of Alzheimer 's Disease International, 26-29 April 2017, Kyoto ( Japan ) .

Ayumi Fujino, Yumiko Momose, Nobuko Amaki, Relationship between Moral Sensitivity of Nurses Who Work at Nursing Homes for the Elderly and Multidimensional Empathy, 31st International Conference of Alzheimer 's Disease International, 21-24 April 2016, Budapest ( Hungary ) .

Ayumi Fujino, Yumiko Momose, Nobuko Amaki, The actual condition of moral sensitivity of nurses who work at Japanese nursing homes, 30th International Conference of Alzheimer 's Disease International, 15-18 April 2015, Perth ( Australia ) .

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

藤野 あゆみ ( FUJINO , Ayumi )  
愛知県立大学・看護学部・講師  
研究者番号 : 00433227

### (2)研究分担者

百瀬 由美子 ( MOMOSE , Yumiko )  
愛知県立大学・看護学部・教授  
研究者番号 : 20262735

天木 伸子 ( AMAKI , Nobuko )  
愛知県立大学・看護学部・講師  
研究者番号 : 40582581

渡辺 みどり ( WATANABE , Midori )  
長野県看護大学・看護学部・教授  
研究者番号 : 60293479